

皆さん、おはようございます。

令和7年度1学期の終業式にあたり、今日は「振り返り」のお話をしてみます。

皆さんは「振り返り」と言われると、どのような受けとめをするでしょうか。いま学校での色々な取り組みの中で皆さんも「振り返り」をする機会がとても多いと思います。東雲憲章の中にも「物事に真剣に取り組み、ふり返ることによって、みんなが、共に高め合う生活を送る」との指針があることから、特に東雲中の皆さんは他の中学校の生徒の皆さん以上に「振り返り」を意識してくれていると思います。

日本ではこの「振り返り」の英語訳として最近は一般的には「reflection」が使われます。また大学での研究の世界では以前から「Reflective thinking」という言葉が使われてきていて、これを日本語にする場合には「反省的思考」という言葉に置き換えられることが多くなっています。「振り返り」の場や時間を「反省会」という表現をすることも日本では多いかもしれません。

この「振り返り」の場や時間として表現される「反省会」の「反省」という言葉を皆さんはどのように受けとめるでしょうか。似たような言葉で「反省文」という表現がすぐに浮かんでくるかもしれません。どうも良くないことを何とか良い方向にしていこうとする方向性が一般的な「反省」には強いようにも感じます。

もちろん、私も含めて皆さんも日々の生活の中で間違いや過ちをどうしても犯してしまうことはあります。以前の朝会の中で「事故はおきるものさ：Accidents Will Happen」というお話もしました。事故や間違い、過ち、そして色々な失敗は人間が人間らしく生きていく上でどうしても「0」にすることは困難です。そして、私たち人間は様々な事故・間違い・過ち・失敗を通して、「振り返り」や「反省」を積み重ねていくことでしか前に進んでいくことはできないとも言えます。

ここまでの朝会の中で、広島大学の初代学長である森戸辰男さん、雨ニモマケズの宮沢賢治さん、それを「Rain won't stop me」と英訳したアーサー・ビナードさん、また皆さんの大先輩となるカルビー株式会社の創業者である松尾孝さん、ISSEY MIYAKEの三宅一生さん、そして三宅一生さんがデザインした黒いタートルネックを愛用したiPhoneのステイブ・ジョブさんのお話をしてきました。この方々の人生は間違いや過ちや失敗の一切ない生活だったのでしょうか。詳しくはまた二学期以降にもお話をしたいと思いますが、いずれにしてもここまで皆さんに紹介してきた方々の共通点は私なりには自分自身をしっかりと「振り返り」、前向きな「反省的思考」を進めてこられた先人だと考えています。最後に皆さんは平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に刻まれている言葉の後半部分が頭の中ですぐに出てくるでしょうか。それは「過ちは繰返しませぬから」です。また夏休み、そして二学期以降にも共に「振り返り」や「反省的思考」について考え合っていきましょう。

さて、最後になりますが、私から皆さんへのお願いです。これから夏休みに入っていきますが、この先も悩み事やうまくいかないこと等がある場合には、くれぐれも一人で抱え込まないでほしいというお願いです。もちろん私も含めて、保護者の方々、学校や各種の習い事の先生方、友達等、皆さんが信頼できる方々に遠慮することなくお話をしたり相談をしたりしてください。これは「ワンチーム・ワン東雲」の中で特にとても大事にことになります。夏休み明けには、生徒の皆さん、先生方、東雲に関わる全ての皆さんが元気に一歩でも二歩でも成長した姿で再会できることを楽しみにしています。